

「きゅうりタウン構想」のもとで、複合的技術や先端技術の確立・普及を推進！



栽培に取り組むきゅうり農家



導入した天敵



施設内環境測定機器



耐病性品種

1. 地域の特徴と取組の背景

- 海陽町では、農業従事者の高齢化が進んでおり、新たな農地の受け手の確保が必要であることから、関係機関と連携し、町内での就農を前提とした研修「きゅうり塾」を実施し、移住を伴った担い手育成により、産地の再生に取り組んでいる。
- 施設きゅうり栽培において、栽培期間が約9か月間と長期にわたるため、**農薬散布回数が多く**、生産者の負担となっている。
- 移住就農者獲得を目指した「きゅうりタウン構想」のもとで、**生産コスト低減**や**人や環境にやさしい栽培方法の実現**に向けた取組を進め、担い手の定住等を目指している。

3. 取組の成果

- 耐病性品種の導入により、**褐斑病の発生が低減**したほか、**化学農薬の使用量の減少**につながった。
- 実証結果に基づき、**栽培マニュアル及び産地戦略の策定**を行った。
- 新たな技術導入による**単収や品質の低下はなく、順調に普及**している。（R4取組面積:1.5ha → R5取組面積:2ha → R9目標面積:3ha）

2. 取組の概要

- 複合耐病性品種の導入**
現行の主力品種は、収量性は高いが、**褐斑病**、**うどんこ病**の両方、またはいずれかに抵抗性を持たないため防除に苦慮していることから、それらの病害両方に対し抵抗性を有する**複合耐病性品種の導入を検討**する。
- 天敵の導入**
重要害虫である**ミナミキイロアザミウマ**に対して、天敵である**スワルスキーカブリダニ**を導入し、産地全体での**農薬使用量の削減**を目指す。
- 施設内環境測定機器の導入**
施設内環境を把握し、**適切な栽培管理を行うこと**で病虫害の発生を抑制し、**農薬散布回数の削減**を目指す。

4. 今後の展望

- 現地検討会**を活用し、**新たな地区（宍喰地区）への普及**を図る。
- 予防が不十分な場合は**灰色かび病**、**べと病**の発生が見られたことから、病害が発生しやすいタイミングでの**防除の徹底**を図っていく必要がある。
- 引き続き、地域に合った品種を選定するとともに、他の病虫害発生状況を考慮し**防除マニュアルを改善**することで、**化学農薬使用量の低減と安定生産の両立**を目指す。

問い合わせ先

海部次世代園芸産地創生推進協議会（美波農業支援センター TEL：0884-74-7358）